

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年11月16日
【事業年度】	第9期（自平成20年6月1日至平成21年5月31日）
【会社名】	サイバーステップ株式会社
【英訳名】	CyberStep, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 類
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区笹塚一丁目48番3号
【電話番号】	03-5465-1500（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理室長 今坂 るみ
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区笹塚一丁目48番3号
【電話番号】	03-5465-1500（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理室長 今坂 るみ
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年8月26日に提出した第9期（自平成20年6月1日至平成21年5月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業の概況

第2 事業の状況

4 事業等のリスク

(6) 継続企業の前提に関する重要事象について

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で示しております。

第一部 企業の概況

第2【事業の状況】

4【事業等のリスク】

(6) 継続企業の前提に関する重要事象等について

(訂正前)

当社グループは、当連結会計年度において、主に新規オンラインゲームタイトルの開発および日本国内におけるサービス立ち上げ、同時にコンシューマ向けゲームソフトウェア開発並びに北米におけるサービス立ち上げが加わり、研究開発費（新規オンラインゲームタイトルおよび新製品にかかる製造部門の労務費、開発委託に関する外注費等の経費）及びサービス部門の販促に関する販促促進費、人件費等が増加いたしました。また、既存のタイトルについてはサービスが開始してからの期間が長くなりロイヤリティー収益力が頭打ち傾向にある中、米国サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安による為替レートの悪化により海外からのロイヤリティー収入が減少する等の影響で、第2四半期連結累計期間において重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上し、重要なマイナスの営業キャッシュ・フローを計上いたしました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象（以下「重要事象等」という。）が発生いたしました。

当連結会計年度におきましても、重要な営業損失、経常損失、当期純損失を計上し、重要なマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、重要事象等が存在しております。

当社グループにおきましては、第2四半期連結累計期間において発生した当該重要事象等を解消すべく、当連結会計年度下期より事業計画を見直し、営業キャッシュ・フローの改善に向けた以下の諸施策を実施してまいりました。

- ・ 外部委託業者に対する新規の発注を控え、オンラインゲームの製作に注力することにより会社全体としての開発コストを抑制し、オンラインゲームの内容の充実と収益力向上を図る
- ・ 販促費を収益力に見合った水準に適正化し、これまでの日本国内での自社運営で培った社内ノウハウを活かしながら最大効率化を目指す
- ・ 中途採用などの採用計画を抜本的に見直し、同時に現社員の業務最適化を図る等により、人件費および外部委託費を抑制する
- ・ 海外運営会社と協力体制を強化し海外での新規タイトル有料化スケジュールを早期に明確化し、ライセンス料収入を確実に計上する

これらの諸施策の実施により、下期においては、営業利益、経常利益、純利益を計上し、営業キャッシュ・フローは計画を上回る黒字化となりました。また、取引金融機関との間で必要な借入極度枠を設定する等、資金調達を行うことを通じ、手許資金の安定化・財務基盤の強化にも努めてまいりました。

来期においても上記諸施策への取り組みを継続し、支出を抑制しながら効率的な事業活動を行い、かつ、当社グループ開発の新規オンラインゲームの各国・地域での立ち上げを着実に進め、ロイヤリティー等の収入を確保することにより、来期の損益及び営業キャッシュ・フローは改善する見込となっております。

また、取引金融機関と良好な取引関係を維持しつつ、より一層の財務基盤の強化を図っていく所存であります。このように、当連結会計年度においては継続企業の前提に関する重要事象等は存在しているものの、上記の既に実施している施策を含む効果的かつ実行可能な対応を行うことにより、継続企業の前提に関して重要な不確実性は認められないものと判断しております。

当社グループの、質の高いエンターテインメントとしてのオンラインゲームを、日本を含めた世界各国にライセンスしてきた技術力と運営実績という強みを活かし、今後も事業拡大を図り業績の向上に注力してまいります。

(訂正後)

当該状況を解消し、また改善するための対応策については、「第2事業の状況 7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (6) 継続企業の前提に関する重要事象等について」に記載のとおりです。対応策の実施により、下期においては、営業利益、経常利益、純利益を計上し、営業キャッシュ・フローは計画を上回る黒字化となりました。
以上のように、当連結会計年度においては継続企業の前提に関する重要事象等は存在しているものの、既に実施している施策を含む効果的かつ実行可能な対応を行うことにより、継続企業の前提に関して重要な不確実性は認められないものと判断しております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(1) から (5) <省略>

(訂正後)

(1) から (5) <省略>

(6) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、「第2事業の状況 4. 事業等のリスク (6) 継続企業の前提に関する重要事象等について」に記載のとおり、継続企業の前提に関する重要事象等が存在すると考えております。当該状況を解消し、また改善するための対応策として、当連結会計年度下期より事業計画を見直し、営業キャッシュ・フローの改善に向けた以下の対応策を実施してまいりました。

- ・ 外部委託業者に対する新規の発注を控え、オンラインゲームの製作に注力することにより会社全体としての開発コストを抑制し、オンラインゲームの内容の充実と収益力向上を図る
- ・ 販促費を収益力に見合った水準に適正化し、これまでの日本国内での自社運営で培った社内ノウハウを活かしながら最大効率化を目指す
- ・ 中途採用などの採用計画を抜本的に見直し、同時に現社員の業務最適化を図る等により、人件費および外部委託費を抑制する
- ・ 海外運営会社と協体制度を強化し海外での新規タイトル有料化スケジュールを早期に明確化し、ライセンス料収入を確実に計上する
- ・ 取引金融機関と良好な取引関係を維持しつつ、より一層の財務基盤の強化を図っていく

来期においても上記対応策への取り組みを継続し、支出を抑制しながら効率的な事業活動を行い、かつ、当社グループ開発の新規オンラインゲームの各国・地域での立ち上げを着実に先行ロイヤリティー等の収入を確保することにより、来期の損益及び営業キャッシュ・フローは改善する見込となっております。

当社グループの、質の高いエンターテインメントとしてのオンラインゲームを、日本を含めた世界各国にライセンスしてきた技術力と運営実績という強みを活かし、今後も事業拡大を図り業績の向上に注力してまいります。